



Fujino Waldorf School

シュタイナー学園通信 2024 Autumn

子どもの成長に
寄り添うカリキュラム
心がふるえる授業、
学ぶ喜び

特集

先生の1日に密着取材！

保護者による

とっておき、先生エピソード

対談

10期卒業生/シュタイナー学園教員 脇元克也 先生

23期卒業生 石橋蒼土さん



先生の1日に密着取材！

シユタイナー学園の先生は

どんな1日を送っているのでしょうか？

1年生担任の田村先生に1学期の

ある1日についてお聞きしました。



1年生担任
田村正美先生



8:30

子ども一人ひとりと握手をしてその子様子を感じとります



家事の隙間に、その日子どもたちに語る素話を覚えています

起床

グロッケン音を合図に遊んでいたあやとりなどを片付けます

はじまりの合図

詩の朗唱歌・笛など

キンダーハープの音色で季節の歌を歌います

リズムの時間



エポック授業

カエルになったり、ウサギになったり...

ファンタジー豊かに

蜜蝋クレヨンを使ってノートに描きます

素話

童話が大好き

おやつ中休み

学校周辺の山歩きをすることも

専科

手の仕事
運動遊び(体育)
オイリュトミー
中国語
英語など

昼食

食べ物に感謝する詩を唱えてからいただきます

掃除

おわりの会

子どもたちは先生と握手をして保護者のもとへ帰ります

下校お迎え

13:30

片付け授業準備
教員会議など

草木染めの授業用に桜の木の皮を煮たり...

家庭訪問や面談もあります

帰宅

家事は家族で分担しています

就寝

眠る前に子どもたちのことを思い浮かべます



取材 / 木村未来・柳田真樹子(事務局広報) イラスト/宇佐美とよみ

【リズムの時間】

「A・O」を表すオイリュトミー(※)の動きや、歌をいくつつか、そして先生のお話を聴きながら体を動かします。動物になってスキップをしたり、サイドステップをしたりすると、子どもの様子がよくわかります。最初はスキップや片足立ち、しゃがんで跳ぶ、などの動作が難しい子もいました。輪になって座り、お手玉を右手で受け取ると同時に左手で渡すという動きも、受け取れるけどどうしても渡せなかったり。でもだんだんとできるようになってきましたね。

※シユタイナー学校の芸術教科。言葉や音楽を、身体を通して表現する運動芸術。

【エポック授業※1】

前日に学んだことをみんなで思い出します。1年生の子どもたちはファンタジーが豊か。前日に小人さんが登場するお話をしてフォルメン(※2)を学んだので、その小人さんはまだいるかな？と問いかけたら、「いるいる〜！」と元気な声がかえってきます。お話の続きをワクワクと待ちながら、新しい学びがはじまります。

※1 基本科目のひとつの科目を3週間前後、朝の105分を使って学ぶ授業。
※2 形を形成するときの動きの道、軌跡を体験する芸術体験。



【素話】

エポック授業の最後に先生が語る物語を聞く時間があります。子どもたちは10〜15分、じっと耳を傾けます。毎日違うお話を語ります。1回で終えるお話もありますが、長いお話の場合は2、3回に分けることもあります。1年生の頃は、題材をグリム童話などの中から選びます。

【思い起こし】

シユタイナー学校の先生たちは、眠りにつく前に子どもたち一人ひとりの名前と姿を思い浮かべる時間を持ちます。眠る前に思い起こすと、朝になってふと「あの子にこれがいんじゃないか」など子どもへのアイデアが唐突に浮かぶことがあります。不思議ですが、夜中に天使が仕事をしてくれた、と思うことになっています(笑)。

編み物の宿題になかなか取りかからなかった3年生の息子（当時）。聞いてみると、授業中に毛糸が絡まってしまい解くのが面倒とのこと。あきらめて、編み物が入った布バックを開けてみると、絡まっていたはずの毛糸がきれいに巻き取られていました。「小人さんがやってくれたんだ！ありがとう」と喜ぶ息子の姿を見て、さりげなく手を差し伸べてくださっている先生に心の中で感謝したのは言うまでもありません。



（12年生、卒業生保護者）
三谷 ゆかり

保護者は、先生方が子どもの様子を記述した「成長の記録」を、年度末に受け取ります。担任の先生が毎年そこに書いてくださる詩がとても印象に残っています。親の自分たち以外にこんなに我が子のことを見てくれている人がいるのだということにただただ驚くとともに、とてもあたたかい気持ちになりました。何回も読み返してみると、そのたびにいろんな発見があります。



（11年生、卒業生保護者）
佐藤 真司



保護者の先生エピソード

とっておき

1 1年生の、毎朝の素話の時間。「先生！この話、知ってるよ！」と先生に伝えたいときは、「だまって自分の耳たぶをひっぱる」というルールがありました。「静かにしなさい！」と大声で圧倒することなく、静けさの中でお話を続けられるのと同時に、子どもたちの「先生に伝えたい！」という気持ちも汲み取ってくださる優しさに感動しました。目を輝かせて、満面の笑顔で、嬉々として先生に向かって耳をひっぱる1年生の子どもたち。授業参観でその光景を見て、かわいすぎて笑いをこらえるのが大変でした。

2 この学園の担任の先生は、1年生が入学する前から、毎日、就寝前にクラス全員の子どものをひとりずつ思い浮かべながら、その子のために祈りをしてくださっているというお話を伺い感動しました。クラスの会で先生に確認すると「そうですよ。名前の順でお祈りしているんですけど…時間がかかるので、寝る前なので、最後の方はちょっと眠くなってしまったりして（笑）」と冗談をおっしゃっていました。本当に激務でお疲れの中でも、毎日祈ってくださってありがたいなあ…と思いつつ、我が子は最後の方なので「先生、次は後ろからお願いします！」とお伝えしました（笑）。

3 7年生の頃、息子が「悪さ」をしたとき、先生から「毎朝早く登校してもらって、1年生のお世話係のようなことをしてもらうことにしました」とお話がありました。「先生、良い罰を与えてくださってありがとうございます！」とお伝えしたところ、「違いますよ。罰ではありません。罰ではなく『良いおこない』に目を向けてもらうためなんですよ」とおっしゃられて、心が洗われる思いでした。息子は、最初は足取りが重かったのですが、1年生がかわいくてしょうがなくなってしまう、毎朝、いつもより早く学園に行くことを楽しみにしていました。そんな日々が終わった頃、1年生の子どもたちから、「といれ、つれてって来てくれてありがとう」「といれ、ありがとう」「〇〇くん、ありがとう。といれ」と、かわいなお手紙をたくさん抱えて帰ってきました。良き思い出です。



（6年、12年、卒業生保護者）
三雲 美穂

Teacher's Room

たむら まさみ

1年生担任・英語専科 田村 正美 先生

Profile: 20年近く海外で過ごし、シンガポールでシュタイナー幼稚園の先生を務めたのち、2016年よりシュタイナー学園英語専科教員。2024年3月に担任をしていた8年生を送り出し、4月から新たに1年生を担当。



お話を聞く
子どもの顔を
思い浮かべて

——先生たちは「素話」
を何も見ずに語ります
ね。準備が大変では？

毎日違うお話を覚えるのは、最初の頃は苦労しました。でも慣れてくると、お話の概要や大切な言葉を覚えれば、あとは自分なりの言葉で話せるようになり、楽しく思えるようになりました。今は子どもが目を輝かせている様子が目に浮かび、このお話はきつと気に入る！と思うと覚えるのも苦ではなくなりました。

楽しみながら作る
エポック授業

——エポック授業も先生によってアプローチが違いますね。どんなふうに作るのですか？
エポック授業では、どの学年で何を学ぶかというテーマはある程度決ま

っていますが、どうやるかは先生に任されています。例えば今、1年生には男の子と女の子の物語をしています。森の中で遊んでいるうちにヒゲのお爺さんと出会い、漢字を発見したり、数の国へ行ったりします。ファンタジーに浸って学んでいると、私が物語を話している最中に、登場人物になりきって聞いていた子どもが受け答えをはじめてしまうことも（笑）。お話のヒントは色々調べますが、子どもの生の反応を見て、どうしたら子どもたちが生き生きと学べるか、と考えていると不思議とアイデアがやってきます。担任になったばかりの頃は授業ができるか不安でしたが、今では創作することを楽しんでいます。

メッセージを受け取る
隙間を作っておく

——忙しい毎日で、大切にしていることはありますか？
自分の力だけでやるのではなく、他からの力を借りたほうが良いものが生まれると感じます。先生仲間からの助言であることもあれば、子どもの反応

や一言であることもあります。そうしたメッセージを受け取るためには、その隙間を作っておく必要があると思います。例えばあんまりガッチリと授業準備をしすぎると、何があっても変えられず融通が利きません。前回担任していたクラスが高学年だった時、子どもの一言でガラッと授業を変えたことがありました。その日は子どもたちの心の栄養になる授業ができたな、と思えました。

——先生として、楽しむ秘訣は？

ある人が「この子どもたちとクラスに集うことは、生まれる前から約束されていたんだよ」と言っていました。この子どもたちの出会いには、きつと何か意味があるはず！と思うと、何が起きても自分を貶めることなく、失敗も糧にすることができます。辛いときは自分が喜ぶことに集中する、とアドバイスもらったこともあります。例えば子どもと一緒に何か楽しいことをする。忙しくて、子どもたちと草木染めするのは楽しいです。何事も自分だけがやらなきゃいけない、と思わないことが楽しめる秘訣ですね。

FUJINO STEINER COLUMN

卒業生対談

10期卒業生/シュタイナー学園教員 **脇元克也** 先生

23期卒業生 **石橋蒼土** さん

シュタイナー学園第10期生で、現在は学園で体育と数学の授業を受け持つ脇元克也先生。同じくシュタイナー学園を2021年春に卒業し、教員を目指して大学に通っている第23期生の石橋蒼土さん。このお二人に“教員を選んだ理由”や“教員として大切にしたいこと”などについて対談を行っていただきました。



教員を目指すきっかけは、先生への憧れ

石橋蒼土さん（以下、石橋）
脇元先生はシュタイナー学園を卒業後、体育大学を卒業し、大学院まで出られたのですよね。公立や私立、たくさん学校のなかで、どうしてご自身が卒業された学園の教員になることを選択されたのですか？

脇元克也先生（以下、脇元）
私が学園に通っていたのは15年以上前になりますが、高校生の頃から「いずれこの学校の体育の先生になりたいな」という気持ちがありました。きっかけは、体育を教えてくれていた先生への憧れです。その先生は、平日は他の学校で働きながら、土曜日だけ体育を教えるに学園に来てくれました。高校生ながらにその大変さを想像して「そんな思いをしてまで教えるにきてくれる理由、やりがいがこの学校にはあるんだなあ」

と感じていました。それが教員の道を歩むようになったスタートラインですね。

石橋 なるほど。僕は昨年、公立の小学校で教育実習を終えたのですが、脇元先生も教育実習は公立の学校でしたか？

脇元 そうですね。公立の中学校へ実習に行きました。楽しかったのですが、自分が育ったこの学園の環境のように、あまり大規模ではない学校で教えたいという希望がありました。規模が大きいと生徒の数も多くなります。そうすると子どもたちとの関係性や、子どもと向き合うことが難しくなるだろうなと。シュタイナー学園はひとつの学年にひとクラス。それくらいの規模が自分には合っているだろうと思っていたところ、タイミングよく学園からお声がけいただきました。

どんな学校にも教育にも、良い面もその逆もある家族が愛をもって過ごせるか

石橋 僕は在学中、下の学年の子どもたちと遊び、見守る機会が多

ますが、それぞれの先生がその授業を心の底から面白いと思っていることがしつかり伝わってきます。僕も可能な限りそうなりたと思っています。

「できるようになる」よりも、大切なこと

先生自身が心の底から面白いと思っているか
石橋 僕は自分が子どもたちに教える内容を、教員側がどれだけ「面白い」と実感しているのかが重要になるなと感じています。そういうことが子どもたちにも伝わるのかな、と。

脇元 そうですね、それは伝わると思います。私自身、体育と数学は学生時代から好きでしたから、授業は楽しめていると思います。

石橋 教育実習に行ったとき、僕は45分の授業時間内に内容を伝えきることに精一杯で、その内容を面白いと思う余裕なんてありませんでした。今、シュタイナー学園主催の教員養成講座に参加してい

脇元 私は、その科目に苦手意識がある子とか、楽しいと思えない子をしつかりケアしていきたいとも思っています。今どの段階に子どもがいるのか、そこを捉えようという努力はしています。つい授業で伝えたい最終地点に辿り着かせようとしてしまいますが、“できるようにになる”よりも“その授業の時間をどういう気持ちで過ごせたか”がまず大切だと思うのです。そもそも、みんなが一律に同じように授業の内容を理解して、できるようにになるなんてありません。それぞれ理解の速度や程度は違って当たり前で、だからこそクラス全体で教え合うことができる。それこそが学びです。シュタイナー学園では、米作りや家作り、服作りなどを行います。手を動かして

何かを作り出す学びを多く行うので、苦手があっても「生きていく上で基本的なことはなんでもできる」という自信をもらいました。
石橋 僕は英語が苦手です。けど物を作るようなことなら「これは作れない」と思うことはありません。「絶対にこれはできない」とは思わないですね。
脇元 私も絵を描くことは未だに苦手です。でも、苦手なりに楽しんでいます。そんな感覚が大切なかなと思います。
石橋 そうですね。学園を卒業して、大学で学んだり、教育実習に行ったりする中で思ったことですが、何かができなくても「それでもいいじゃん」と思える感覚があります。それは、諦めるという意味ではないんです。これが自己肯定感なのですかね。自分にも他人にも完璧を求めていないですし、当たり前前の感覚としてそれがあります。できないことを受け入れるとか、多様性とかそういうことではなくて、そもそもできることやできないこと、得意なこと、それぞれの個性があつて当然というか…。
脇元 誰かと同じようにできなく

くありました。その中で「子どもたちと関わり続けられる仕事したい！」と強く思うようになっていきました。また、色々な社会問題を解決したいと考えた時、教育が何よりも大事になると感じ、教員を目指しました。学園には共通した考え方や感性を持った家庭が多く集まっています。長い間その中で過ごしてきたので、今はそういった環境の中ではなく、多種多様な考えの家庭、さまざまな子どもたちがいる公立学校で働いてみたいという気持ちがあります。

脇元 いいですね！私はシュタイナー教育の理念や思想はものろん大切にしていますが、それが絶対だとは思っていません。どんな学校にも、どんな教育にも、良い面もあればその逆もあると思います。ぜひ他の学校や教育の良いところ、面白いところを私にもたくさん教えてください。

石橋 はい。そういえば、脇元先生のご家庭にお子さんが生まれたと聞きました。育児休暇を取られたそうですが、いかがでしたか。また、お子さんにシュタイナー教育を受けさせたいと思いますか？

石橋 僕は教員になったら、学び続けるだけではなく、研究し続けたいと思っています。どう指導したらより伝わるか？とか。それが子どもと向き合うことにつながると思っています。

脇元 私も“初心忘れるべからず”で、学生時代の気持ちを忘れずにこれからもやっていきたいと思っています。ありがとうございます。

過去の卒業生インタビューを
ご覧いただけます。また
ニュースレターの登録も
こちらからどうぞ↓



コラム アーカイブ



ニュースレター登録

シュタイナー学園の未来へ

● インターンを募集します！

シュタイナー学園では一緒に学び、教員を目指す方をサポートするインターンシップ制度をスタートしました。

シュタイナー学校の教員になりたい方、ご応募ください！

https://www.steiner.ed.jp/fujino_intern/



● 第2期シュタイナー学校 教員養成講座開講します！

第1期に続き、2025年度から第2期の教員養成講座を開講することとなりました。シュタイナー学校の先生に興味がある方、シュタイナー教育をより深く学びたい方、まずは説明会にお越しください！

<https://www.steiner.ed.jp/youseisetsumei2025/>



シュタイナー学園にご寄付いただき
ありがとうございます！

2023年も多くの方々にご寄付をいただきました。
心より感謝申し上げます。今後とも皆様のご支援
をどうぞよろしくお願いいたします。

2023年寄付者ご芳名一覧

(寄付受付期間:2023年1月～12月)

五十音順、ご寄付時に、広報物への掲載可とされた方
のみ掲載しています。

〈個人〉大野 司 様 大野 典子 様 津屋 隆之介 様
宮川 知美 様 他25名(延べ94回)
合計 1,898,000円

〈団体〉全2団体(延べ4回) 合計 324,000円



寄付専用ページ

<https://www.steiner.ed.jp/donation/>



Information

- 9/6 (金) お父さんのためのオンライン座談会
- 9/7 (土) 入学・転入説明会(願書配付会)・高等部体験授業
- 9/20 (金) 校内ツアー
- 9/28 (土) シュタイナー学園出張講座
シュタイナー教育体験授業(青山学院大学)
- 10/13 (日) 高等部学園祭
- 10/18 (金) 校内ツアー
- 11/22 (金) 校内ツアー
- 12/13 (金) 二学期祭・校内ツアー

2025

- 1/10 (金) 校内ツアー
- 1/11 (土) 二次募集 入学・転入説明会(願書配付会)
高等部体験授業 ※実施されない場合があります。
- 2/16 (日) 8年劇
- 2/22 (土) 12年生卒業オイリュトミー公演
- 2/27 (木) 三学期祭・校内ツアー
- 3/28 (金) 春のシュタイナー学校&移住ツアー

※感染症拡大の影響等で予告なく変更する可能性があります。
詳細はシュタイナー学園のHPをご確認ください。



シュタイナー学園 初等部・中等部

〒252-0187 神奈川県相模原市緑区名倉2805-1
TEL 042(686)6011 FAX 042(686)6030

シュタイナー学園 高等部

〒252-0183 神奈川県相模原市緑区吉野407
TEL 042(687)5510 FAX 042(687)5540

<https://www.steiner.ed.jp/>



@fujinostainerjapan



@steiner_gakuen



シュタイナー学園通信

2024年9月 制作・発行 学校法人シュタイナー学園

access

